

特集記事

平成29年 新春トップセミナー

「動き出す関西」

関西経済同友会 代表幹事（三井住友銀行 取締役副会長） 蔭山 秀一 氏



講師の蔭山 秀一 氏

●はじめに

皆さん、新年明けましておめでとうございます。関西経済同友会の蔭山でございます。本日はお招きいただきまして、誠にありがとうございます。本日は「動き出す関西」というテーマで話をさせていただきます。最近、いろんな方々から関西経済のことについて質問されるわけですが、皆さんにお答えさ

せていただいているのは、国際経済は非常にグローバルリスクが多い状況になっておりますが、関西経済に関しては全国的、世界的にも注目されているイベントなどがありまして、皆さんにはチャンスだと申し上げます。

●観光インバウンドの拡大

最初は観光インバウンドのことから話したいと思います。2015年の訪日外国人客数は1,973万人、約2,000万人ということで過去最高を更新。2016年は図-1によると、11月末時点で2,198万人。じつは昨日の新聞報道に2016年の集計が発表され、2,403万人という数値が出ています。このグラフが訪日外国人旅行者の推移ですが、わずか数年前の2013年は1,036万人でした。この時点で約1,000万人だったのが2016年にはその2倍以上の2,400万人になったということで、信じられない伸び方をしています。新聞紙上にはインバウンドの状況の記事が時々載っています。前年同月対比でホテルの稼働率が下がったとか、爆買いが減ってインバウンド消費が少なくなったといった記事が、去年はたくさん載っていました。冷静に考えていただきたいのは、2013年の1,000万人の時のレベルからすると、今の議論というのは2倍強になった、この辺りの議論であります。この辺りでの前年対比が上がったとか下がったとかの話であって、完全にステージが変わってきているということです。今後もなかなか一本調子ではいかないと思いますが、ここにきてステージが変わったということを理解していただきたいと思えます。

大阪はどうかというと、同じように2013年が263万人、2015年が716万人であり、2.7倍になっています。これを見ると日本全体のインバウンド観光客を引っ張ってきたのは、まさに大阪であるといえるのではないのでしょうか。なぜ大阪が引っ張れた

蔭山 秀一 氏 ご略歴

- 1956年 7月 4日生
- 1979年 4月 神戸大学経済学部卒業 住友銀行入行
- 2002年 9月 梅田法人営業第二部長
- 2003年 10月 神戸法人営業第一部長
- 2006年 4月 執行役員 京都北陸法人営業本部長
- 2009年 4月 常務執行役員 大阪本店営業本部担当
- 2012年 4月 取締役兼専務執行役員  
コーポレート・アドバイザー本部長
- 2014年 4月 取締役兼副頭取執行役員
- 2015年 4月 取締役副会長
- 2015年 5月 関西経済同友会 代表幹事就任

(現在に至る)

## ■ 観光インバウンドの拡大

- ▶ 2015年の訪日外客数は1,973万4千人と過去最高を更新。
- ▶ 2016年は、11月末時点で既に年間の過去最高を更新(2,198万人:推計)。
- ▶ 大阪への外国人客数は716万人と、2015年は2014年に比べて2倍近い伸び。

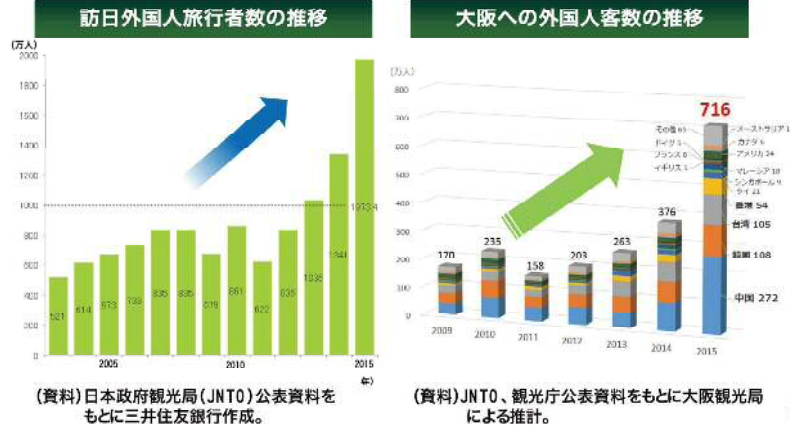
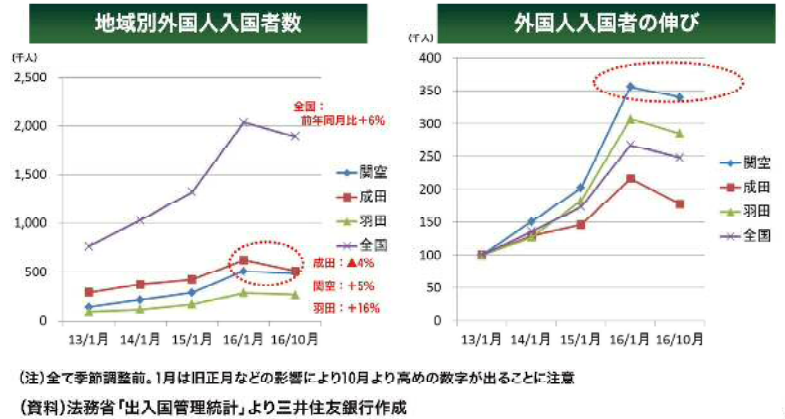


図-1 観光インバウンドの拡大

## ■ 観光インバウンドの拡大

- ▶ 関西の観光インバウンドは、全国を上回る勢いで拡大を続けている。



- ▶ 中国を中心としたアジアからの訪日客の割合が全国対比で多い。

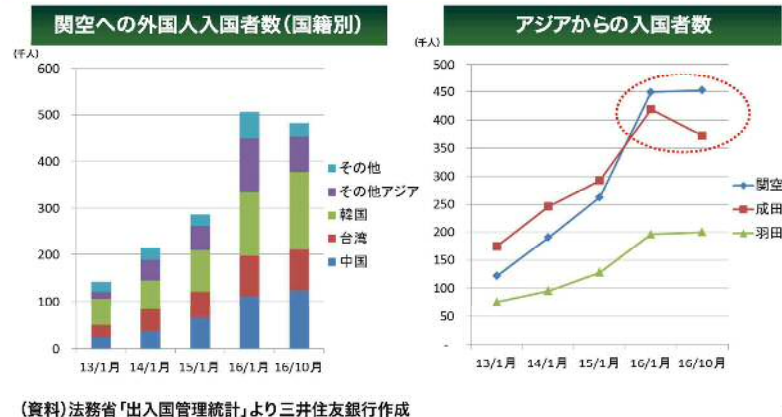


図-2 地域別外国人入国者数

のかと言え、これは関西国際空港がLCCの発着拠点になったということが一番の要因だと思います。グランフロント大阪、あべのハルカス、USJのハリポッターなどの新しい観光名所ができたことも大きかったと思いますが、やはりLCCの国内最大拠点に関西国際空港がなったことが大きな要因だと言えます。

図-2を見ていただきたいのですが、地域別外国人入国者数は2013年1月時点で関空は成田の半分程度でした。これが16年10月時点では成田と並び、完全にキャッチアップしたということです。これは実数ですが、隣のグラフの伸び率では成田の伸びと比べて、それ以上に伸びているのが分かります。

関空にどこの国から来ているのかを見ると、中国、韓国、台湾、その他のアジア、その他に分けられています。中国は13年に比べて更に伸びていますが、台湾や韓国からも非常に多く来ています。その他のアジアも13年に比べると伸びています。じつは東アジア、東南アジアからの人たちが関空へ来ているわけです。右のグラフを見ると、アジアから日本への入国者数は成田より関空の方が伸びているということが分かります。

●訪日旅行に関する比較 (アジア上位10カ国・地域)

ここで何が言いたいかというと、日本全体への訪日旅行を引っ張ってきたのは関西であり、関西を引

っ張ってきているのはアジアだということです。アジアのインバウンド顧客は、今後どうなるのかを示しているのが図-3です。これは2015年の訪日客数ですが、例えば韓国について見ると、400万人に来ていただきました。人口に占める割合は7.9%で、韓国から海外に旅行した人が占める割合は24.8%、4人に1人が日本に来ていただいているわけです。台湾に至っては総人口の15.6%の人に来ていただいて、海外に行った人のうち日本に来ていただいた割合は31%で、3人に1人が来ていただいています。リピーターが多く、我々が行かない所まで行っていると思われます。

では中国はどうでしょうか。中国は500万人来ていただきましたが、人口13億人ですから人口比はわずか0.3%、外国旅行者に占める割合は4.2%です。中国から来る人が中国の人口の1%になったとしたら、700万人、800万人もの人が今後まだ来るという計算になります。その通りになるかどうかは分かりません。

図-4は中国の地域別一人あたりGDPを示したものです。この5,000ドルラインを超えると、海外旅行に行く余裕が生まれると言われています。約10年前の2005年には、上海、北京、天津しか5,000ドルラインを超えていませんでしたが、2014年は雲南、貴州、チベットの3つの地域を除く地域全部が、5,000ドルラインを超えてしまいました。2016年には3つの地域を含め全部が超えると考えられ、

■ 訪日旅行に関する比較(アジア上位10か国・地域)

	訪日外客数			人口 (万人)	外国旅行者 総数 (万人)	1人当たり GDP (米ドル)	日本での 消費額 (円)
	実数 (万人)	総人口に 占める割合 (%)	外国旅行者 総数に 占める割合 (%)				
中国	499.3	0.3	4.2	136,782	11,659.0	7,589	197,777
韓国	400.2	7.9	24.8	5,042	1,608.1	28,101	64,020
台湾	367.7	15.6	31.0	2,343	1,184.5	22,598	88,915
香港	152.4	20.9	16.5	726	922.3	39,871	110,821
タイ	79.6	1.1	13.3	6,866	597.0 (2013年)	5,445	117,550
マレーシア	30.5	1.0	N.A.	3,026	N.A.	10,804	117,009
フィリピン	26.8	0.2	N.A.	9,943	N.A.	2,865	95,880
インド ネシア	20.5	0.1	2.5	25,149	797.3 (2013年)	3,534	95,077
ベトナム	18.5	0.2	N.A.	9,063	N.A.	2,053	202,418
(参考)							
米国	103.3	0.3	3.3	31,905	3,078.0	54,597	146,558

(資料)日本政府観光局等公表資料をもとに三井住友銀行作成。訪日客数は2015年速報値。その他は2014年。 4

図-3 今後のインバウンド

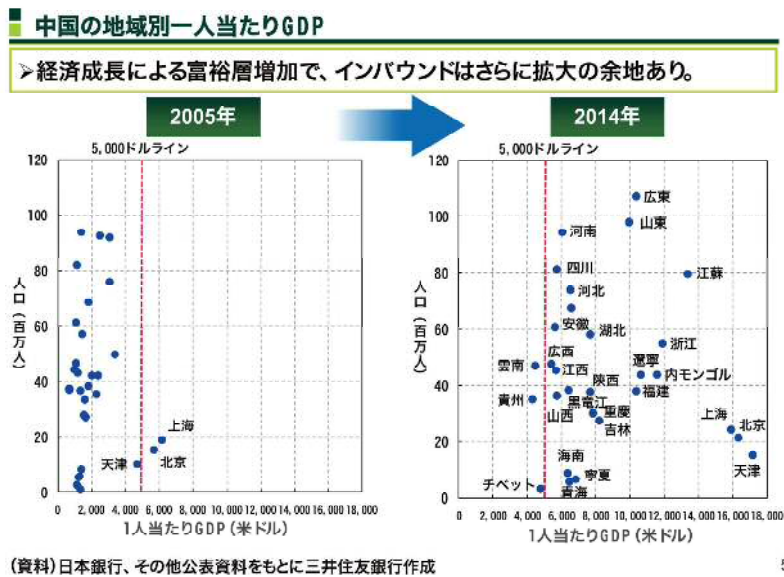


図4 一人当たりのGDP (中国)

しかも上海、北京、天津の3エリアより人口が多いエリアが5,000ドルラインを超えているということです。これらの国やエリアにLCCがどんどんアクセスしているというのが現状であります。

今まで話したのが関空のインバウンドの状況ですが、非常に順調に伸びています。政府は2020年度までに日本のインバウンド観光客を2,000万人にしようと言っていたものが、すでにこれを達成してしまっただけでなく、そのため4,000万人へと修正したわけですが、LCCの拠点になったことでアジアからの観光客がものすごく増えて、このままいくと関西の経済の大

きな支柱になると思います。

●関西で予定されているプロジェクト

ここで今後のプロジェクトを時系列的に紹介したいと思います (図-5)。自然体でもこのまま観光客は伸びると思いますが、まずはスポーツ関連でラグビーワールドカップは2019年に開催され、関西では神戸、東大阪の花園が予選会場として予定されています。2020年は東京オリンピック・パラリンピック。2021年に関西WMG (ワールドマスターゲームズ)、これは関西広域連合が受けた素人のスポーツ大運動会です。スポーツ以外のプロジェクトを

■ 関西で予定されているプロジェクト(抜粋)

	2017年～	2020年～	2030年～
ラグビーW杯		●2019年:開催(関西は神戸・東大阪が予選会場)	
東京オリパラ		●2020年:開催	
関西WMG		●2021年:開催(2府7県)	
IR	●2016年12月:推進法成立 ●2017年12月:実施法成立見込		●2022～23年頃:開業?
万博	●2017年4月頃:立候補 ●2018年11月:BIE総会にて開催地決定		●2025年:大阪開催?
うめきた2期	●施設(道路・みどり地下化・新駅等)建設		●2026年度:整備完了
中之島	●再生医療拠点、文化・芸術拠点を整備予定(～2021年目途)		●2021年:大阪新美術館(仮称)開業予定
リニア	●(2015年～)名古屋-東京間 着工開始		●2027年名古屋開通 ●2037年:新大阪延伸
北陸新幹線	●(2015年)金沢開業	●2022年度 敦賀開業	●2040年頃 新大阪?
ミッシングリンク	●湾岸西伸部(2016年4月:事業化決定。予算要求、早期に着工予定) ●淀川左岸線延伸部(2016年11月:計画決定。2017年度事業化の見込み)		

(資料)公表資料等をもとに三井住友銀行作成

図-5 関西で予定されているプロジェクト (抜粋)



その下に示していますが、昨今の頃にはなかったはずですが、IR推進法案が昨年12月に成立し、1年以内に実施法案が成立する見込みです。実施法案が成立する段階でIR誘致の募集が始まり、開業は2022年～23年頃が見込まれます。万博は今年4月頃には日本国として立候補し、来年11月のBIE総会で投票によって開催地が決定します。これでもし大阪開催が決まれば、25年に万博が開催されます。この2つのプロジェクトは夢洲での開催が予定されています。

その下は大阪の都市開発のプロジェクトです。うめきた2期(17ha)は、すでに地下化・新駅の工事が始まっており、フルオープンが26年度。中之島は21年に大阪新美術館が開業する予定で、再生医療拠点、文化・芸術拠点の整備もその辺りまでに整備される見込みです。これらは大阪の中でも立地の良い場所での開発ということで、大きなインパクトになることが考えられます。次は広域のプロジェクトですが、リニアの新大阪延伸は2037年ということでもまだまだ遠い話ですが、また、北陸新幹線は敦賀までの開業見込みが22年度ということから、新大阪まで来るのは40年頃かと思われまます。その下に書いてあるミッシングリンクというのは、高速道路の延伸プロジェクトです。このようなプロジェクトを見ると、2019年辺りからやらなければならないインフラ整備が目白押しということなのです。

## ●関西ワールドマスターズゲームズ2021

まずはワールドマスターズゲーム(図-6)から詳しく紹介します。これは30歳以上の生涯スポーツの祭典で、各国予選なしで、エントリーしたら誰でも参加できるものです。開催期間は16日間で、新しい設備はつくらず、既存の設備を使います。スポーツ・ツーリズムを推奨しています。選手村がありませんから、参加者は普通のホテルに泊まって、普通のレストランで食事をしなければなりません。家族みんな来てもらって、その後に近所でツーリズムをしましようということを推奨しています。2021年5月15日～30日までの16日間、関西の各都市で開催することが決定しています。関西の2府7県で約5万人の選手を見込んでいます。

関西広域連合として受けたので、この図-7に示した鳥取や徳島も含めた広域で開催され、32競技55種目が行われます。ものすごく不便なところでも行われますが、これはスポーツによる町おこしの可能性もあるということです。ここで皆さんに認識していただきたいのですが、既存の施設・設備を使うということから総事業費は30億円程度です。だから学生ボランティアや通訳なども欠かせません。東京オリパラの翌年になるため、東京オリパラで出てきた新しい技術が使われる可能性があります。さらにレガシーとして関西地域でのスポーツが、おらが街のスポーツとして永続的に開催していくことにつながるのではないかと考えられます。

## ■ 関西ワールドマスターズゲームズ2021

国際マスターズゲームズ協会(MGA / スイス ローザンヌ)が主宰し、概ね30才以上の成人・中高年の皆さんが出席する生涯スポーツの国際総合競技大会

大会概要	
開催期間	2021年5月15日(土)～30日(日) 16日間
開催都市	関西各都市(2府7県)
目標参加者数	選手5万人(国内3万人、国外2万人:160ヶ国・地域以上)
競技数	コア競技 (アーチェリー、陸上競技、バドミントン、バスケットボール、カヌー、自転車、ホッケー、サッカー、オリエンテーリング、ボート、射撃、ソフトボール、スカッシュ、卓球、トライアスロン、ウエイトリフティング) オプション競技(約14競技)、オープン競技、デモンストラーション競技
経済効果	関西広域連合試算 : 約140億円

- 登録すれば、各国予選なしに国際大会へ出場可能(原則)
- 参加基準は年齢のみで上限なし(競技種目毎に設定)
- 32競技55種目のプログラムに複数エントリーが可能
- 年代別に種目を実施、各年代別にメダルを授与
- 16日間の大会期間と前後の観光滞在のため、生涯スポーツ大会では最長の滞在期間
- 新規の施設整備は行わず、既存スポーツ施設を使用
- わが国でのスポーツツーリズムの拡大へ



(資料)公表情報をもとに三井住友銀行作成 7

図-6 関西ワールドマスターズゲーム 2021

## ■ 関西ワールドマスターズゲームズ2021



(資料) 関西ワールドマスターズゲームズ2021組織委員会

8

図-7 関西ワールドマスターズゲームズ2021

### ● 夢洲におけるIR・万博について

次はIRと万博について説明します(図-8)。埋め立て地の夢洲の面積は390haと広大で、一部はコンテナヤードになっていますが、夢洲の北部分100haを使って万博をやるというものです。一方のIRはすぐにカジノと訳されそうですが、じつはIR、インティグレートド・リゾートというのはシンガポールで生まれた言葉で、カジノも含めた統合的なリゾートであります。シンガポールの例でいえば、カジノの事業面積は総開発面積の3%~5%にとどめられており、入り口は一般用と完全にセパレート

されていて、入場者の厳重なチェックが行われています。オープン型のカジノとは全く違う様相になっています。一方でカジノの収益を使って、短期的に採算のとりにくい大型のMICE施設やエンターテインメント施設と一緒に運営することが出来るというビジネスモデルでもあります。特に大型のMICE施設について、我々はIR事業者が大阪に進出する際に必ずつくってほしいと要望しています。MICE施設はミーティングやインセンティブツアー、コンベンション、エキシビジョンなどからなるもので、例えば1万人規模の会議場、10万m<sup>2</sup>の展示場など、

## ■ 夢洲におけるIR・万博について

### 立地

### 万博について

- ◆テーマ 人類の健康・長寿への挑戦 (英語版) Our Health, Our Future
- ◆会場規模 夢洲を万博会場として約100haを想定
- ◆輸送計画
  - 地下鉄中央線(北港テクノポート線)の延伸に伴う夢洲駅(仮称)からのアクセスを軸とし、主要駅や会場周辺に設ける駐車場からのシャトルバスを運行
- ◆前倒費用 <大阪府による試算>
  - 会場建設費 1,200~1,300億円程度
  - 運営費 90~740億円程度
- ◆開催期間 2025年5月~10月(6か月)
- ◆入場者想定規模 3,000万人以上
- ◆スケジュール 2016年11月、パリが立候補  
2017年5月までに開催が舞後、大阪も立候補  
2018年頃 BIE(国際博覧会事務局)総会にて開催地決定

出典:大阪府作成「2025日本万国博覧会基本構想(草案)【概要版】」より

### IRについて

#### 1.ポイント

- 夢洲のIRは大阪だけでなく関西全体のゲートウェイであるべき
- IRは自らの経営を必要とするシステム。これを営む民間事業者は、当然にリスクに負合ったリターンを求める
- IR施設に設置される施設種別や規模、内容などは事業ノウハウを有してリスクを取る事業者が決めるべきであるが当会としては、関西に不足している大型MICE施設の設置を要望している
- カジノの負の側面については、諸外国の例を参考に内閣官房にて対応検討中であり、十分な対策が取られる公算

#### 2.想定されるスキーム(例)

#### 3.経済効果等の試算

事業規模	5,545億円
投資総額	7,769億円
IRへの投資	6,759億円
夢洲基盤整備	1,000億円
関西への経済効果	
開業前の経済効果(累積)	14,711億円
開業前の雇用創出	93,114人
開業後の経済効果(年間)	7,596億円
開業後の雇用創出(累計)	97,672人

9

図-8 IRと万博

今まで日本になかったようなスケール感のあるものをお願いしています。ギャンブル依存症の話も問題になっていますが、プロフェッショナルのカウンセラーが24時間体制で、電話やインターネットなどを通じて全ての依存症の人に対応することになっています。その機関は子供たちに対しても依存症の怖さを教育しているということです。日本は先進国の中で唯一、カジノが解禁されていないわけですが、既に先行事例の研究を積んでいます。心配されているようなものとは違う、ということをお伝えしたいと思います。

もう1つ言っておきたいことがあります。IRができるのはこの場所ですが、観光客を定着させていくために1つは広域化していく必要があります。関空に着いた訪日客は一目散にどこへ行っているかという、とりあえず大阪には来てくれるのですが、大阪から次に京都へ行ってしまう。その後の展開は、新幹線に乗って東京へ行って、富士山を見て帰っていく。こんな展開なのです。これを関西広域で展開しようとするれば、やはりゲートウェイというか、関西観光の窓口となる必要があります。IRにそれを期待しています。クルーズ船が出ることも期待していますが、これは瀬戸内海に向かうということで西日本観光の拠点にもなり得ると思います。

また、何よりも言っておきたいこととして、大阪市は夢洲という巨大な島をスマートシティにしよう

という構想を持っています。都心まで30分圏内の位置にあって、コンテナヤードやソーラーパネルがある区域を除いても、200ha以上を今から開発しなければいけない場所があります。壮大なるスマートシティをつくろうという構想であり、当然のことながらエネルギーミクス・エネルギーコントロール等、スマートシティに欠かせない高度な情報通信インフラを備えた街にしようということです。ここで社会実験ができ、ビッグデータが集積できる地域になるのではないかと考えられます。IR予定地の隣のUSJは年間1,400万人の来場者があります。IRも1,000万人以上が見込まれます。万博は半年間ですが、3,000万人の来場者が予想されます。夢洲がスマートシティとなって様々な実験を通じ、現実的に起こるリアルな空間として使えるのではないかと期待があります。

IRについてもう1つ、経済効果を試算していますが、雇用はIRに関連する裾野部分を含めて9万人以上が生まれるのではないかと想定しています。これも非常に大きなポイントだと思います。

●インフラ整備～うめきた2期・中之島・なにわ筋線 (図-9)

うめきた2期は17haの用地で、コンセプトが「緑とイノベーションの融合」となっています。事業コンペが始まりますが、すでにうめきた新駅の建設が始まっています。関空からJRを使うと天王寺で環状線に入り、その後に貨物線の線路で新大阪まで行

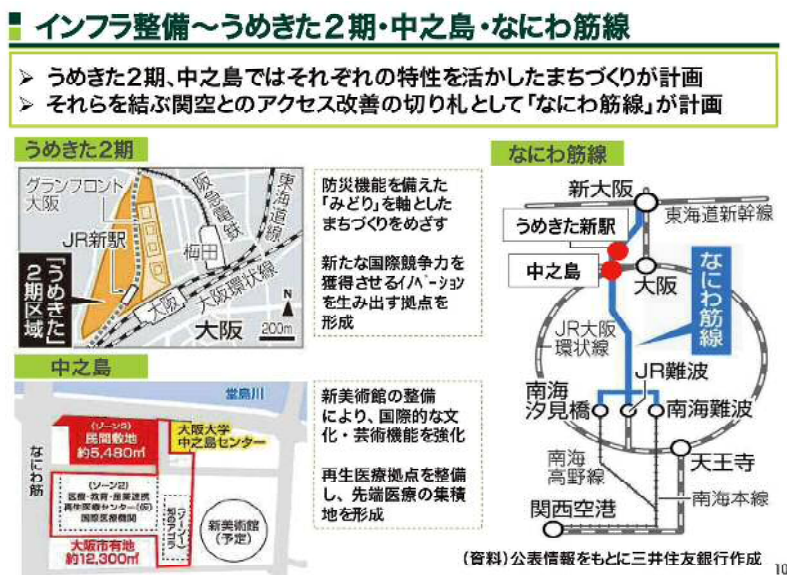


図-9 インフラ整備～うめきた2期・中之島・なにわ筋線



き、新大阪で乗り換えないと大阪駅に行けないというのが現状で、非常に長い時間がかかっています。新駅ができると、そのまま梅田で降りることが出来るようになります。さらに今計画されているのが「なにわ筋線」です。これができると、縦一本で南海との乗り入れができることとなります。うめきた2期の開発と同時に、新線の計画も本格的に動き出そうとしています。

中之島では、大阪大学にぜひ帰ってきてほしいという我々の思いを汲んでいただいた動きがあります。新美術館ができるということで、大阪大学に中之島を歴史・文化・産学連携の拠点にしようという「知のアゴラ構想」を出していただきました。一部隣接用地には大阪府・大阪市が中心となって国際医療研究機関を誘致できないかと現在交渉中です。

●広域インフラの整備～リニア、北陸新幹線、ミッシングリンク

これはリニア中央新幹線のルート図(図-10)ですが、新大阪まで2045年開業予定を、最近では8年前倒して34年開業を目指しています。品川から新大阪まで1時間でつながることになっていて、東京・名古屋・大阪がつながることからスーパーメガレージョン構想と言われます。ストロー効果ということで、大阪からまた東京に吸い込まれてしまうと心配している人もいますが、私の感覚ではストローで吸われるようなものは、もう大阪にはないと思います。(笑) それよりも大阪が、夢洲を中心とし

た観光拠点となり、歴史・文化・観光のまちである大阪と、政治・経済の中心の東京という住み分けの極となり、大阪は非常に面白い街になるのではないかと思います。要するに、ミニ東京をつくる必要がないといえます。

北陸新幹線もやっと小浜-京都案ということでルートが決まりました。それに伴って新大阪までのルートが検討されています。これが早く決まって、リニア中央新幹線ができる頃には、北陸新幹線も来ていることを我々は希望しているところです。

次は高速道路の話です。阪神高速は湾岸線が六甲アイランドの所で止まっています。ポートアイランドを通して長田区まで伸びる区間が、ここで途切れています。これがポートアイランドまで伸びると、もしも夢洲のIR、万博が実現すれば最も近い空港は神戸空港となります。神戸空港は利用率が少なく民間に売りに出されていますが、ここが開通すれば大変な空港になる可能性があります。もう1つ、阪神高速では湾岸線から淀川左岸を通して、第2京阪に抜けるルートも事業化が決定しました。これで何がいいのか。じつは大阪空港(伊丹)への空港線が朝夕は大変混雑しています。この大阪港線の波除付近などはともかく混みます。それはなぜかというと、名神から神戸の湾岸に抜けるのに必ず大阪市内を通らなければいけないため、豊中方面行きと大阪港線でこっちへ行く交通を含めて大混雑しています。淀川左岸線延伸部ができると、京都か

■ 広域インフラ整備～リニア、北陸新幹線、ミッシングリンク



図-10 広域インフラの整備～リニア、北陸新幹線、ミッシングリンク



ら市内に入らず済むことで、市内の渋滞が緩和するという効果が出ます。大阪ベイエリアができた後にこの辺りの高速道路が整備されると、神戸空港、伊丹空港、関西空港からのアクセス度が抜群によくなります。都心の中で3つの空港を抱えるというエリアは、そんなに存在しないと思います。この辺りが大阪の楽しみなところだと思います。

### ●関西の産業活性化に向けた取り組み～メンタープログラム

関西経済同友会では、関西の産業活性化に向けて「メンタープログラム」を立ち上げました。昨年12月からまだ2回しか開催していませんが、同友会のオーナー経営者二十数人にメンターになっていただき、大阪市のベンチャー企業育成機関に集まってくる人たちと、個々に直接対話をするようになりました。一般的にベンチャーの育成というところまでは一生懸命なのですが、我々はミドルステージのベンチャーの人たちに企業経営者のプロの立場として、事業展開に必要な人的つながりの面で何かお手伝いができないかと考えたわけです。ベンチャーとして5年、10年が経過し、年商100億円に達している会社も入っています。ここで話してみてよく分かったことですが、ベンチャーでよく言われる「死の谷」の段階を越えてはいるが、「ダーウィンの海」でもがき苦しんでいる方々がいることが分かりました。非常に素晴らしいビジネスモデルを持っていても、ある程度成功してしまったので、成功した後の展開が見えずに、今の目標を聞

くと、「1,000億円を目指している」とか「上場を目指す」とは言うものの、自分たちの強みが何であるのかも把握できていない人がいました。

講義形式ではなくて、侃々諤々、1対1、1対2のガチンコ形式で1回2時間程度の面談をしています。面談という形式も好評のようです。メンターの経営者にとってもの刺激となっているようで、ベンチャーの人たちが当たり前のようにAIを使いこなしていくとか、自分たち以上に彼らはいろんなIoTに関して先進的なことをやっているとか、ものすごく着眼点が面白いことに気づかされます。メンタル面なことでも刺激になっているようです。関西には反骨精神があるとよく言います。私は東京の人たちから、「東京のベンチャーには関西弁の人が多い」とよく冷やかされることがあります。風土としては申し分ないはずですが、関西になぜベンチャーが次々と出てこないかをテーマとした委員会もありますが、とりあえず経営トップの人たちがベンチャーの人たちに直接会うことで、実際にどんなことができるのかが分かってくるはずだと思っています。

### ●おわりに

先ほど申し上げたように、関西にとって観光が1つの大きな柱になりつつあり、その後の2020年後から10年、20年をかけた大きなプロジェクトが目白押しであって、関西を今後支えてくれる若い経営者が順調に育っているということで、非常に期待できるということを強調して、私の話を終わらせていただきます。ご清聴、ありがとうございました。

## ■ 関西の産業活性化に向けた取り組み～メンタープログラム

### 背景・問題意識

- 関西には若手成功起業家のメンターとなる存在とのつながりが少ない。
- 一方で、同友会会員の中にも、若手起業家を応援したいという想いを抱いている経営者・経営陣がいる。
- 同友会の持つ人的資源を集積の核として、それらに横串を通すことができるのではないか。

### 同友会メンタープログラムとは

- 同友会の中に、メンターとして活動頂ける会員(＝同友会メンター)をリストアップする。
- 同友会メンターは、若手起業家に経験や志を伝える、また、若手起業家の話を聞いて相談に乗る等、同友会メンターと若手起業家との意見交換、接点を持つ場を作る。
- ベテラン経営者と次世代経営者が、ビール片手に気軽にざっくばらんに語り合う場を作ることが目的。

### 開催風景

